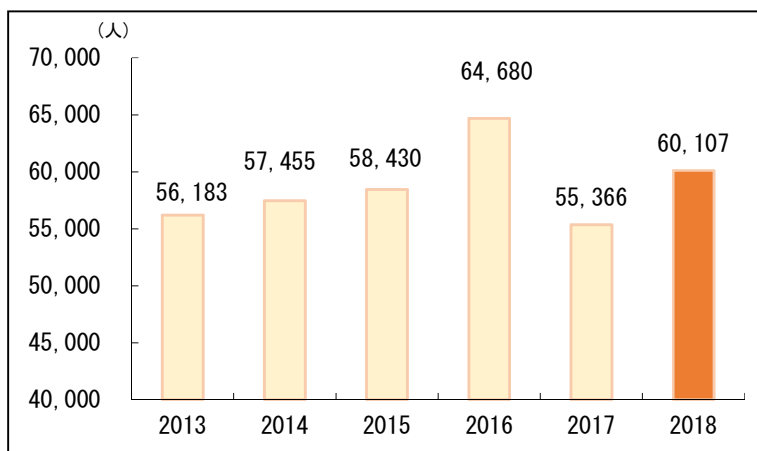


VI 参考資料

1 第2期計画における目標指標ごとの結果

[休日歩行者通行量]

●調査結果の推移



年度	数値
2013(平成 25)	56,183 人 (基準年値)
2014(平成 26)	57,455 人
2015(平成 27)	58,430 人
2016(平成 28)	64,680 人
2017(平成 29)	55,366 人
2018(平成 30)	60,107 人 (最終値)
2018(平成 30)	60,000 人 (目標値)

※調査方法: 中心市街地通行量調査

※調査月: 毎年度 5 月・11 月

※調査主体: 豊橋市

※調査対象: 歩行者

●目標値の達成状況

休日歩行者通行量の増加に向けた各事業のうち、主要事業の豊橋駅前大通二丁目地区第1種市街地再開発事業について、事業内容の見直しや調整等に時間を要し進捗に遅れが生じたため施設の供用に至っておらず、計画当初に見込んでいた効果が得られませんでした。

しかしながら、継続的に取り組んできているソフト事業の効果や2018(平成30)年3月の計画変更時に追加した6項目の新規事業の効果により目標を達成しました。

●主な事業の計画終了時の状況(2019(平成31)年3月31日時点)

■No.1 豊橋駅前大通二丁目地区第1種市街地再開発事業(豊橋駅前大通二丁目地区市街地再開発組合)

事業実施期間	2014(平成26)年度～2024(令和6)年度【実施中】
事業概要	狭間児童広場、名豊ビル、開発ビル等のリニューアルを図り、商業・業務・住宅機能とまちなか広場やまちなか図書館を含む公共公益機能を一体的に整

	備し、本市の中心市街地のにぎわいの創出を図ります。
計画終了時の状況	除却工事行程などの事業内容見直しや事業費調整と地権者対応に時間を要したことから進捗が遅れが生じたため施設の供用に至りませんでした。2021(令和 3)年度に東棟が供用予定で、併せてまちなか広場、まちなか図書館についても供用開始を予定しており、西棟については 2024(令和 6)年度に供用を予定しています。

■No.2 まちなか広場整備事業(豊橋市)

事業実施期間	2014(平成 26)年度～2021(令和 3)年度【実施中】
事業概要	狭間児童広場及び旧バスターミナル施設を市街地再開発事業において再整備をおこない、各種イベント等に対応可能な機能及び緑化機能を配置します。
計画終了時の状況	当事業は豊橋駅前大通二丁目地区第 1 種市街地再開発事業と一体的に整備するものです。除却工事行程などの事業内容見直しや事業費調整と地権者対応などにより進捗が遅れたため、施設が供用できませんでした。2021(令和 3)年度に供用開始を予定しています。

■No.3 まちなか図書館整備事業(豊橋市)

事業実施期間	2014(平成 26)年度～2021(令和 3)年度【実施中】
事業概要	駅前大通二丁目地区第 1 種市街地再開発事業において、図書館サービスの充実を図るとともに、中心市街地の一層のにぎわいの創出とステイタス向上を図るため、新たにまちなか図書館を整備します。
計画終了時の状況	当事業は豊橋駅前大通二丁目地区第 1 種市街地再開発事業と一体的に整備するものであり、同事業の進捗の遅れにより、計画当初に見込んでいた効果が得られませんでした。周辺地域では公共施設の活用についての気運が高まるなど、間接的な効果も見られました。豊橋駅前大通二丁目地区第 1 種市街地再開発事業と調整を行いながら、2021(令和 3)年度に開館を予定しています。

■No.4 まちなか情報発信の強化(豊橋市・豊橋まちなか活性化推進協議会)

事業実施期間	2012(平成 24)年度～【実施中】
事業概要	ホームページ「豊橋まちなか情報ステーション」や様々な魅力的なイベントを掲載したチラシの発行により、まちなかのホットな情報を発信します。
計画終了時の状況	イベント合同チラシ発行部数 2014(平成 26)年度:50,000 部、2015(平成 27)年度:30,000 部、2016(平成 28)年度:25,000 部、2017(平成 29)年度:25,000 部、2018(平成 30)年度:25,000 部

	<p>ホームページアクセス件数</p> <p>2014・2015(平成 26・27)年度:未取得、2016(平成 28)年度:190,383 件、 2017(平成 29)年度:342,616 件、2018(平成 30)年度:395,040 件</p> <p>ホームページのアクセス件数は年々増えています。</p>
--	--

■No.5 拠点公共施設と魅力あるまちなか店舗との連携事業(豊橋市)

事業実施期間	2013(平成 25)年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の拠点となる公共施設において、まちなかの店舗等の情報入手できるようにし、まちなか店舗に施設利用者を誘導します。
計画終了時の状況	<p>「店舗情報コーナー」参加店舗数</p> <p>2014(平成 26)年度:23 店、2015(平成 27)年度:30 店、2016(平成 28)年度:30 店、2017(平成 29)年度:47 店、2018(平成 30)年度:23 店</p> <p>「豊橋まちなかモノ語りマップ」2014～2018(平成 26～30)年度:各 5,000 部発行。2017(平成 29)年度には地方創生大賞の最優秀賞を受賞しました。</p>

■No.6 元気・魅力店舗見える化&ネットワーク事業(豊橋市)(株式会社豊橋まちなか活性化センター)

事業実施期間	2014(平成 26)年度～【実施中】
事業概要	元気で魅力的な店舗を応援するため、中心市街地でがんばる魅力的な店舗の情報を発信するとともにそれらのネットワーク化を推進し、情報共有や顧客の紹介実施等の支援を行います。
計画終了時の状況	<p>2014～2016(平成 26～28)年度</p> <p>情報誌「QUATRO」(クワトロ)の発行(9月・3月)各 35,000 部</p> <p>2017(平成 29)年度・2018(平成 30)年度</p> <p>「魅力満店まち歩きマップ」の発行回数 2 回(4月・8月)各 5,000 部</p> <p>魅力満店まち歩きマップについては特に周辺宿泊施設などから好評をいただくなど、にぎわい創出に寄与しています。</p>

■No.7 とよはしクリスマスマーケットの開催(豊橋市)【2017(平成 29)年度追加】

事業実施期間	2015(平成 27)年度～【実施中】
事業概要	本市のパートナーシティ・ドイツのヴォルフスブルグ市との交流にちなみ、豊橋駅南口駅前広場において、クリスマスマーケットやまちなか店舗と連携した販促活動を実施します。
計画終了時の状況	<p>2015(平成 27)年度:1 日開催 延来場者 2,000 人</p> <p>2016(平成 28)年度:3 日間開催 延来場者 13,000 人</p> <p>2017(平成 29)年度:3 日間開催 延来場者 19,600 人</p> <p>2018(平成 30)年度:10 日間開催 延来場者 28,100 人</p> <p>イベント開催による集客効果のほか、周辺地区のにぎわいや回遊性の向上</p>

	に寄与しました。
--	----------

■No.8 ええじゃないかとよはし映画祭事業(ええじゃないかとよはし映画祭実行委員会)【2017(平成 29)年度追加】

事業実施期間	2016(平成 28)年度～【実施中】
事業概要	市内外の若年層に対して豊橋市の認知とイメージ向上を図るため、愛知・豊橋ゆかりの映画作品の上映や映画関係者によるカンファレンス、若手映画人を発見・発掘するためのコンペティションなどを行います。
計画終了時の状況	2018(平成 30)年度 3日間開催 参加者数 4,092人 映画祭期間中に市内外から多くの来場があり、参加者へ配布をしたロケ地マップや豊橋カレーうどんマップ等が活用され中心市街地への回遊が進み、にぎわいの向上につながりました。

■No.9 ガクセイ魅力デジタルマップづくり(豊橋市)【2017(平成 29)年度追加】

事業実施期間	2017(平成 29)年度～2018(平成 30)年度【済】
事業概要	若年層や観光客などの来街者の増加を図るため、中心市街地の魅力を若者目線で発信するマップを制作し、豊橋駅のデジタルサイネージやホームページで発信します。
計画終了時の状況	2017(平成 29)年度: 2回開催(9・12月) 参加人数 24人 2018(平成 30)年度: 1回開催(9月) 参加人数 8人 まち歩きを行いながらデジタルマップを制作し、ホームページ「みてみりん」等で公表することにより中心市街地の魅力を発信しました。

■No.10 コミュニティ活動等促進事業(豊橋市)【2017(平成 29)年度追加】

事業実施期間	2017(平成 29)年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の魅力向上や活性化につながるコミュニティ等の活動を支援します。
計画終了時の状況	2017(平成 29)年 9月にコミュニティ施設「みずのうえビジターセンター」を開設しました。 ワークショップの開催 2017(平成 29)年度 18回 2018(平成 30)年度 38回 地域情報の発信やワークショップ等の開催により、にぎわいの創出につながりました。

■No.11 まちなかピクニック事業(豊橋市)【2017(平成 29)年度追加】

事業実施期間	2017(平成 29)年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の公共空間を活用した市民等による自主的な活動を促進し、新しいまちの魅力づくりを行うためのイベントを開催します。
計画終了時の状況	延来場者数 2017(平成 29)年度:約2,000人、2018(平成 30)年度:約1,200人

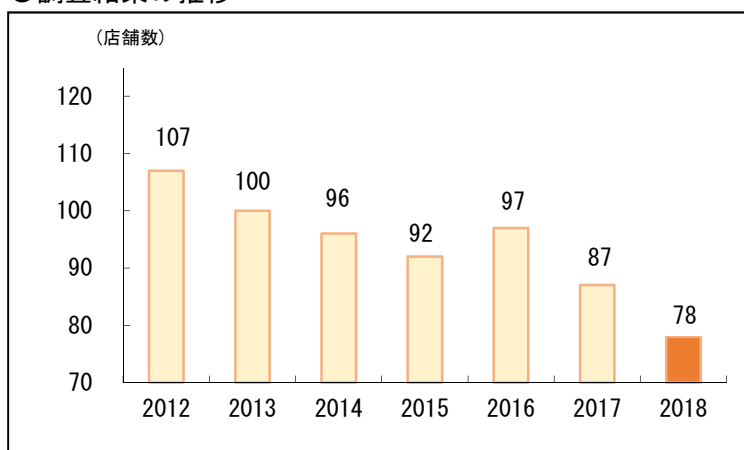
	イベント開催による集客効果のほか、将来のにぎわいづくりの担い手となる出店者が多く集まり、駅前広場の使い方を学びながら交流を深めました。
--	---

■No.12 豊橋まちゼミの開催(豊橋市)【2017(平成 29)年度追加】

事業実施期間	2016(平成 28)年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の店舗とまちなかのファンづくりを行うため、店主等が講師となり、専門知識等をお客様に伝えるミニ講座「まちゼミ」を実施します。
計画終了時の状況	講座数および参加者数 2016(平成 28)年度:33 講座 323 人 2017(平成 29)年:65 講座 376 人 2018(平成 30)年度:38 講座 272 人 2017(平成 29)年度に事務局を民間事業者へ移行 店舗の存在や特徴を知ってもらうことができ、店舗の顧客づくりにつながりました。

[空き店舗数]

●調査結果の推移



年度	数値
2012(平成 24)	107 店 (基準年値)
2013(平成 25)	100 店
2014(平成 26)	96 店
2015(平成 27)	92 店
2016(平成 28)	97 店
2017(平成 29)	87 店
2018(平成 30)	78 店 (最終値)
2018(平成 30)	90 店 (目標値)

※調査方法: 現地調査

※調査月: 毎年度 3 月

※調査主体: 株式会社豊橋まちなか活性化センター

※調査対象: 中心市街地 商業・サービス業重点地区周辺の店舗

●目標値の達成状況

空き店舗数は、2013(平成 25)年度以降は減少傾向にあり、2016(平成 28)年度はやや増加しましたが、2017・2018(平成 29・30)年度には再び減少し、目標値を上回る 78 店となりました。

調査地区の動向としては、豊橋駅近くの街区は飲食店を中心に出店需要が高く、空き店舗は減少傾向にあります。また、駅前大通二丁目地区第 1 種市街地再開発事業が行われている地区周辺では、新たな店舗の出店需要が高まりつつあり、空き店舗が減少しています。

●主な事業の計画終了時の状況(2019(平成 31)年 3 月 31 日時点)

■No.1 商店街空き店舗対策事業(豊橋市・株式会社豊橋まちなか活性化センター)

事業実施期間	2000(平成 12)年度～【実施中】
事業概要	空き店舗の情報提供とともに出店意欲のある事業者を支援し、商店街全体の魅力向上を図ります。
計画終了時の状況	2016(平成 28)年度までに 9 店舗の空き店舗を解消しました。 2016(平成 28)年度よりまちなかインキュベーション&チャレンジング事業に補助事業を統合しました。

■No.2 テナントコンバートチャレンジ事業(豊橋市・株式会社豊橋まちなか活性化センター)

事業実施期間	2014(平成 26)年度～【済】
事業概要	中心市街地において事業継続が困難な店舗等を消費者のニーズに応えるような店舗に入れ替え、魅力ある商業店舗の集積を図ります。
計画終了時の状況	2015(平成 27)年度に 10 年以上空き家の物件で親子カフェを開店しました。

■No.3 まちなかインキュベーション&チャレンジング事業(株式会社豊橋まちなか活性化センター)

事業実施期間	2014(平成 26)年度～【実施中】
事業概要	まちなかにおける新規開業者等の育成、出店への意欲を高めるため、短期間の出店に対し補助を行います。
計画終了時の状況	2016(平成 28)年度より商店街空き店舗対策事業と補助事業を統合しました。 2017(平成 29)年度 空き店舗の解消実績 7 店舗 2018(平成 30)年度 空き店舗の解消実績 5 店舗 2016(平成 28)年度より商店街空き店舗対策事業と補助事業を統合し窓口を一本化したため、補助制度の活用方法がわかりやすくなり目標値を大幅に上回りました。

■No.4 豊橋駅前大通三丁目地区優良建築物等整備事業(優良建築物等整備事業施行者)

事業実施期間	2013(平成 25)年度～2016(平成 28)年度【済】
事業概要	低層部に商業・業務機能を配置し、中高層部には住宅機能を配置します。
計画終了時の状況	2016(平成 28)年度の事業完了に伴い、空き店舗 1 件が解消されました。

■No.5 豊橋広小路三丁目 A-2 地区優良建築物等整備事業(豊橋広小路三丁目 A-2 地区優良建築物建設組合)

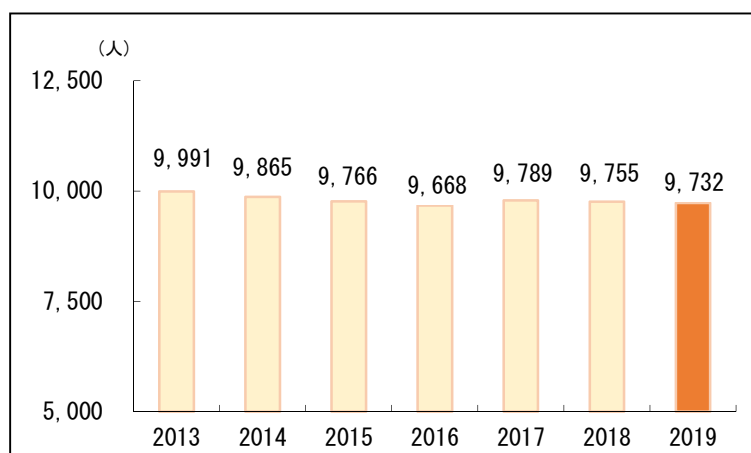
事業実施期間	2012(平成 24)年度～2014(平成 26)年度【済】
事業概要	低層部に商業機能を配置し、中高層部には高齢者や環境に配慮した多様なライフスタイルに対応した都市型住宅の整備を行います。
計画終了時の状況	2014(平成 26)年度の事業完了に伴い、空き店舗 1 件が解消されました。

■No.6 都市居住促進事業(豊橋市)

事業実施期間	2016(平成 28)年度【実施中】
事業概要	空き家や空き店舗の利活用を促進するため、中心市街地における空き家・空き店舗ツアーの実施や不動産業者との情報交換会を行います。
計画終了時の状況	2016(平成 28)年度 参加者 20 人 2017(平成 29)年度 参加者 13 人 2018(平成 30)年度 参加者 14 人

[中心市街地の人口]

●調査結果の推移



年	数値
2013(平成 25)	9,991 人 (基準年値)
2014(平成 26)	9,865 人
2015(平成 27)	9,766 人
2016(平成 28)	9,668 人
2017(平成 29)	9,789 人
2018(平成 30)	9,755 人
2019(平成 31)	9,732 人 (最終値)
2019(平成 31)	10,500 人 (目標値)

※調査方法:住民基本台帳

※調査月:毎年 4 月 1 日

※調査主体:豊橋市

※調査対象:中心市街地の区域に属する 37 行政町別人口

●目標値の達成状況

中心市街地の人口の増加に向けた各事業のうち、豊橋駅前大通二丁目地区第 1 種市街地再開発事業について、事業内容の見直しや調整等に時間を要し進捗が遅れたため施設の供用に至っておらず、計画当初に見込んでいた効果が得られませんでした。

また、2018(平成 30)年 3 月の計画変更時に 3 つの新規事業を追加したものの、本市の総人口が減少しているほか、再開発等による新たな住宅供給が行われなかったこともあり減少に転じ、目標値を下回る結果となりました。

●主な事業の計画終了時の状況(2019(平成 31)年 3 月 31 日時点)

■No.1 豊橋駅前大通三丁目地区優良建築物等整備事業(優良建築物等整備事業施行者)

事業実施期間	2013(平成 25)年度～2016(平成 28)年度【済】
--------	--------------------------------

事業概要	低層部に商業・業務機能を配置し、中高層部には住宅機能を配置します。
計画終了時の状況	事業費の見直しが必要となり全体設計をやりなおした結果住宅戸数が増加しました。2016(平成 28)年度に事業が完了し、205 人増加しました。

■No.2 豊橋広小路三丁目 A-2 地区優良建築物等整備事業(豊橋広小路三丁目 A-2 地区優良建築物建設組合)

事業実施期間	2012(平成 24)年度～2014(平成 26)年度【済】
事業概要	低層部に商業機能を配置し、中高層部には高齢者や環境に配慮した多様なライフスタイルに対応した都市型住宅の整備を行います。
計画終了時の状況	2014(平成 26)年度に事業が完了し、84 人増加しました。

■No.3 豊橋広小路一丁目南地区優良建築物等整備事業(個人施行)

事業実施期間	2015(平成 27)年度～【未】
事業概要	低層部に商業施設を配置し、中高層部に良好な都市型住宅の供給を行います。
計画終了時の状況	権利者の合意形成に至っておらず、事業が未着手となりました。

■No.4 豊橋駅前大通二丁目地区第 1 種市街地再開発事業(豊橋駅前大通二丁目地区市街地再開発組合)

事業実施期間	2014(平成 26)年度～2024(令和 6)年度【実施中】
事業概要	狭間児童広場、名豊ビル、開発ビル等のリニューアルを図り、商業・業務・住宅機能とまちなか広場やまちなか図書館を含む公共公益機能を一体的に整備し、本市の中心市街地のにぎわいの創出を図ります。
計画終了時の状況	除却工事行程などの事業内容見直しや事業費調整と地権者対応に時間を要したことから進捗が遅れが生じたため施設の供用に至っておらず、計画当初に見込んでいた効果が得られませんでした。2021(令和 3)年度に東棟が供用予定で、西棟については 2024(令和 6)年度に供用を予定しています。

■No.5 コミュニティ活動等促進事業(豊橋市)【2017(平成 29)年度追加】

事業実施期間	2017(平成 29)年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の魅力向上や活性化につながるコミュニティ等の活動を支援します。
計画終了時の状況	2017(平成 29)年 9 月にコミュニティ施設「みずのうえビジターセンター」を開設しました。 ワークショップの開催 2017(平成 29)年度 18 回 2018(平成 30)年度 38 回 地域情報の発信やワークショップ等の開催により、にぎわいの創出につながりました。

■No.6 都心居住促進事業(豊橋市)【2017(平成 29)年度追加】

事業実施期間	2016(平成 28)年度～【実施中】
事業概要	空き家や空き店舗の利活用を促進するため、中心市街地における空き家、

	空き店舗ツアーや建築士会や不動産業者との情報交換等を行います。
計画終了時の状況	2016(平成 28)年度 参加者 20 人 2017(平成 29)年度 参加者 13 人 2018(平成 30)年度 参加者 14 人

■No.7 民間事業者による住宅整備(豊橋市)【2017(平成 29)年度追加】

事業実施期間	2016(平成 28)年度～【実施中】
事業概要	再開発事業や公共公益施設の整備等により中心市街地の魅力が高まるとともに、老朽化した店舗の建替え需要により民間事業者による住宅整備が行われます。
計画終了時の状況	中心市街地内の複数か所において、民間事業者による集合住宅の整備が着手または計画されています。

2 中心市街地に関する市民ニーズの詳細

(1)「中心市街地来街者アンケート」調査

今後の中心市街地活性化に係る施策検討のために、中心市街地への訪問頻度やまちなか居住の意向、活性化の状況等を把握するためのアンケート調査を実施しました。

①調査実施期間

2019(令和元)年5月4日～11月10日(期間内のイベント開催時)

②調査方法

街頭での聞き取り形式によるアンケート調査

③調査対象者・サンプル数

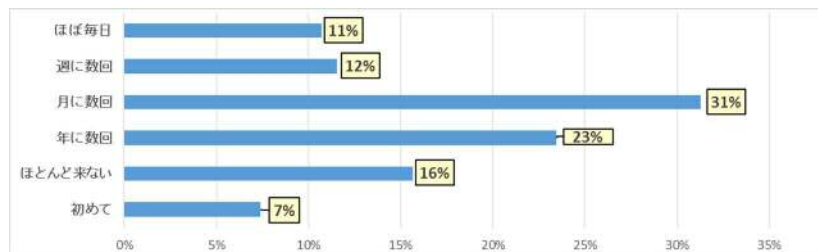
中心市街地来訪者 有効標本 243 件(アンケート結果(ア)～(オ))

④アンケート結果

(ア) 中心市街地への訪問頻度

中心市街地に訪問する頻度についての回答は下図のとおりです。

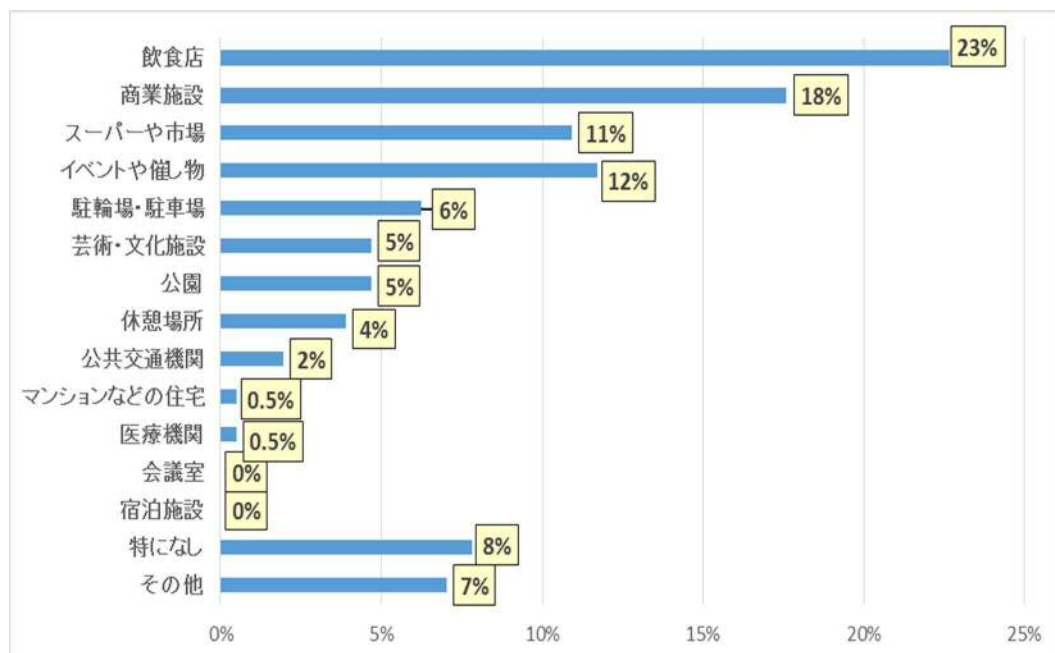
ほぼ毎日(11%)、週に数回(12%)、月に数回(31%)、年に数回(23%)、ほとんど来ない(16%)でした。



(イ) まちなかに充実してほしいこと

回答が多い順に、飲食店(23%)、商業施設(18%)、イベントや催し物(12%)

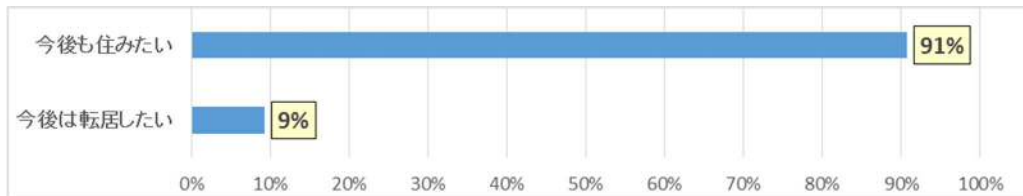
スーパーや市場(11%)でした。



(ウ) まちなかでの居留意向／今後の居留意向

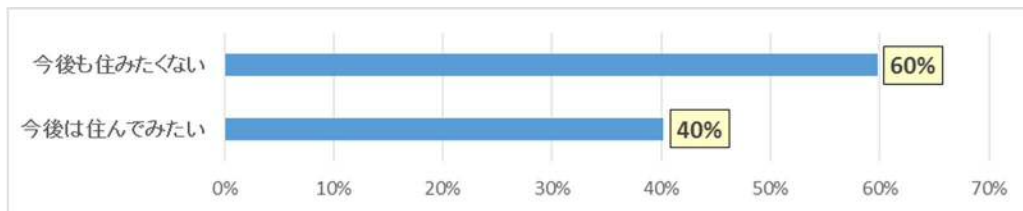
○中心市街地内居住者の回答

今後も住みたいと答えた人が多く、91%でした。



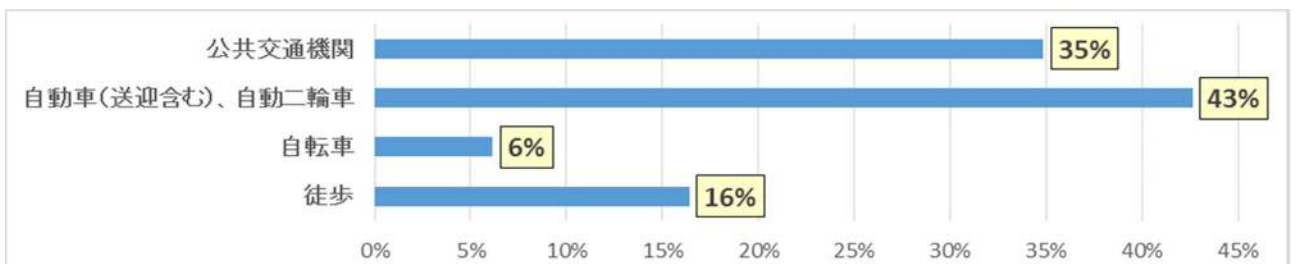
○中心市街地外居住者の回答

今後もまちなかへ住みたくないという人が多く60%でした。



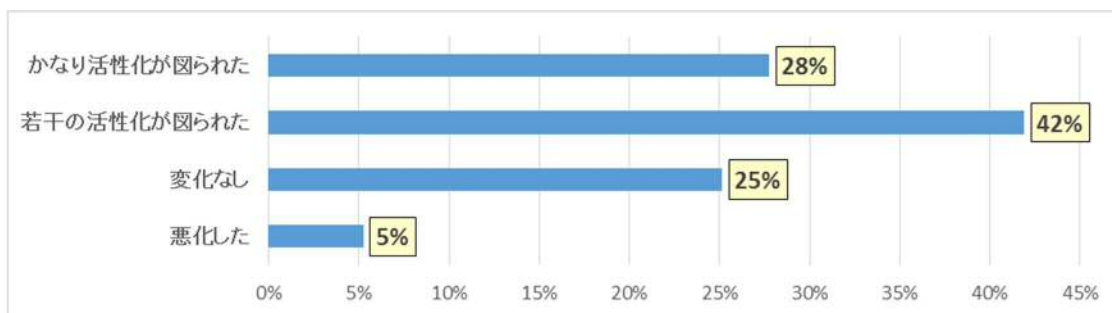
(エ) 交通手段

車での訪問が43%と最も多く、公共交通機関(市電、バス、渥美線、名鉄、JR)での訪問が35%、徒歩・自転車の合計が22%でした。



(オ) 概ね5年前と比較した活性化の状況

「若干の活性化が図られた」(42%)、「かなり活性化が図られた」(28%)と全体の7割近くが「活性化が図られた」と回答がありました。



(2) 市民意識調査

市民意識調査の中で、市民の訪問目的や中心市街地活性化に必要な取組、活性化の状況を把握するためのアンケート調査を実施しました。

①調査実施期間

2020(令和2)年6月24日～7月21日

②調査方法

郵送配付によるアンケート調査。回答は郵送またはwebによる。

③調査対象者・サンプル数

市内在住の満18歳以上の男女 有効標本数 2,553件(回収率51.1%)

④アンケート結果

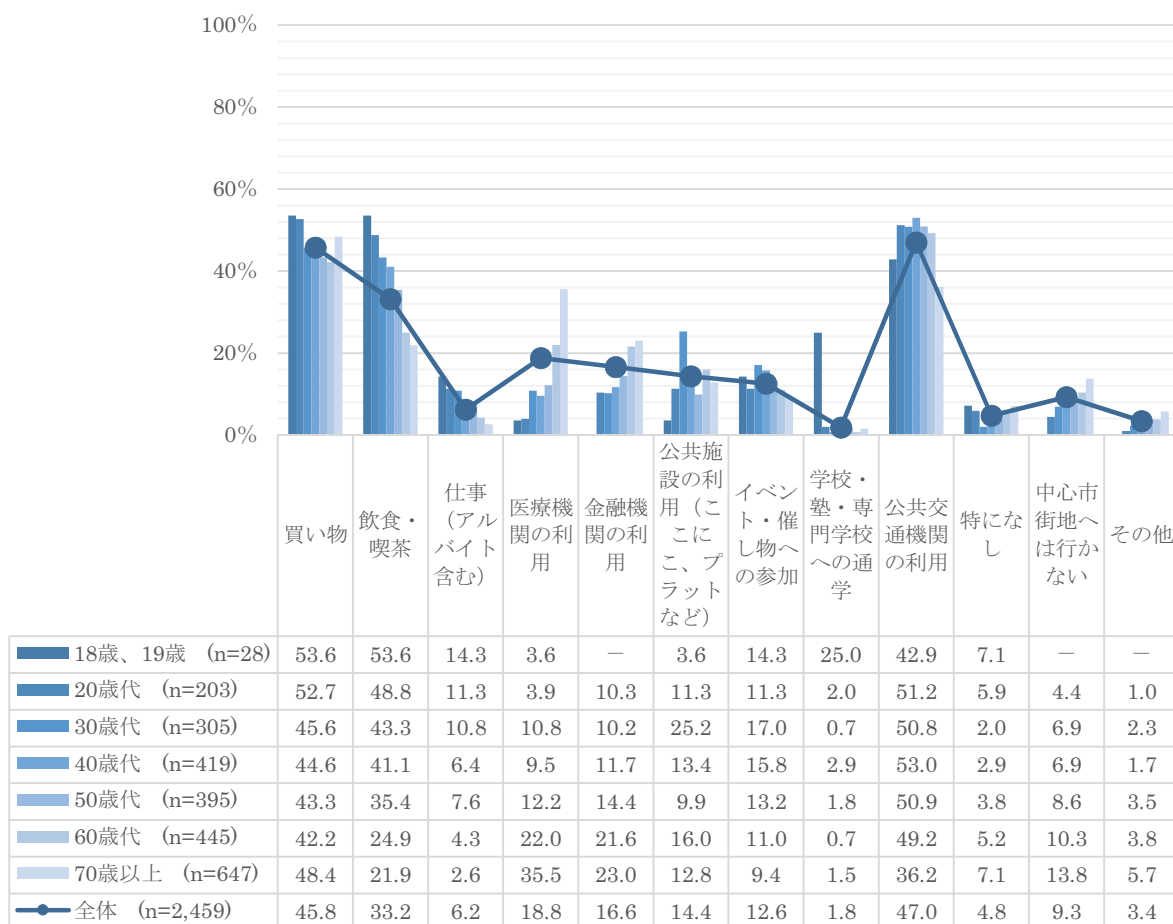
(ア) 中心市街地へ訪問する目的

【全体的傾向】

「公共交通機関の乗り換え」と回答した人の割合が47%で最も高く、次いで「買い物」(約46%)、「飲食・喫茶」(約33%)と続いています。

【年代別にみた特性】

すべての年代で、「公共交通機関の利用」と回答した人の割合が高く、特に20歳代から60歳代は、約49%～53%と高くなっているまた、20歳代以下は、「買い物」と回答した人の割合が約53%～54%、70歳以上は、「医療機関の利用」と回答した人の割合が、約36%と他の年代と比べ高くなっています。



(イ) 概ね5年前と比較した活性化の状況

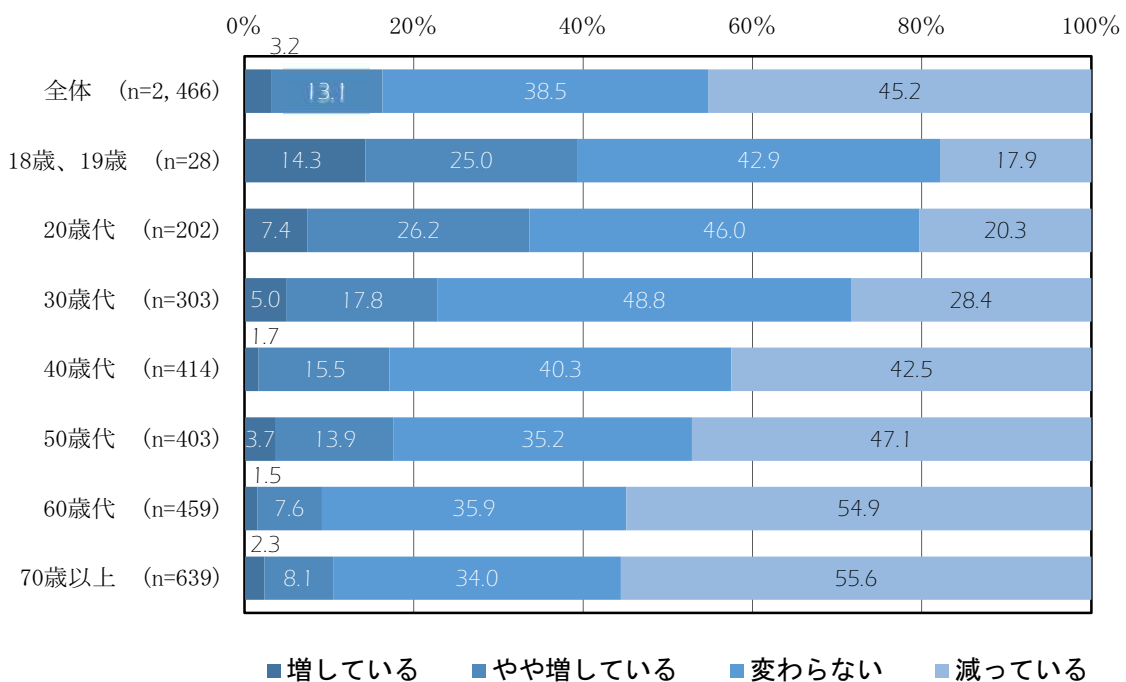
【全体的傾向】

「減っている」と回答した人の割合が、約45%と最も高く、次いで「変わらない」(約39%)、「やや増している」(約13%)、「増している」(約3%)となっています。

【年代別にみた特性】

「増している」、「やや増している」と回答した人を合わせた割合が、年代が低くなるほど高くなる傾向があり、18歳、19歳は約40%となっています。

一方、「減っている」と回答した人の割合は、年代が高くなるほど高くなる傾向があり、60歳代以上は5割を超えています。



(ウ) 中心市街地をより活性化するために重要な取組は何か

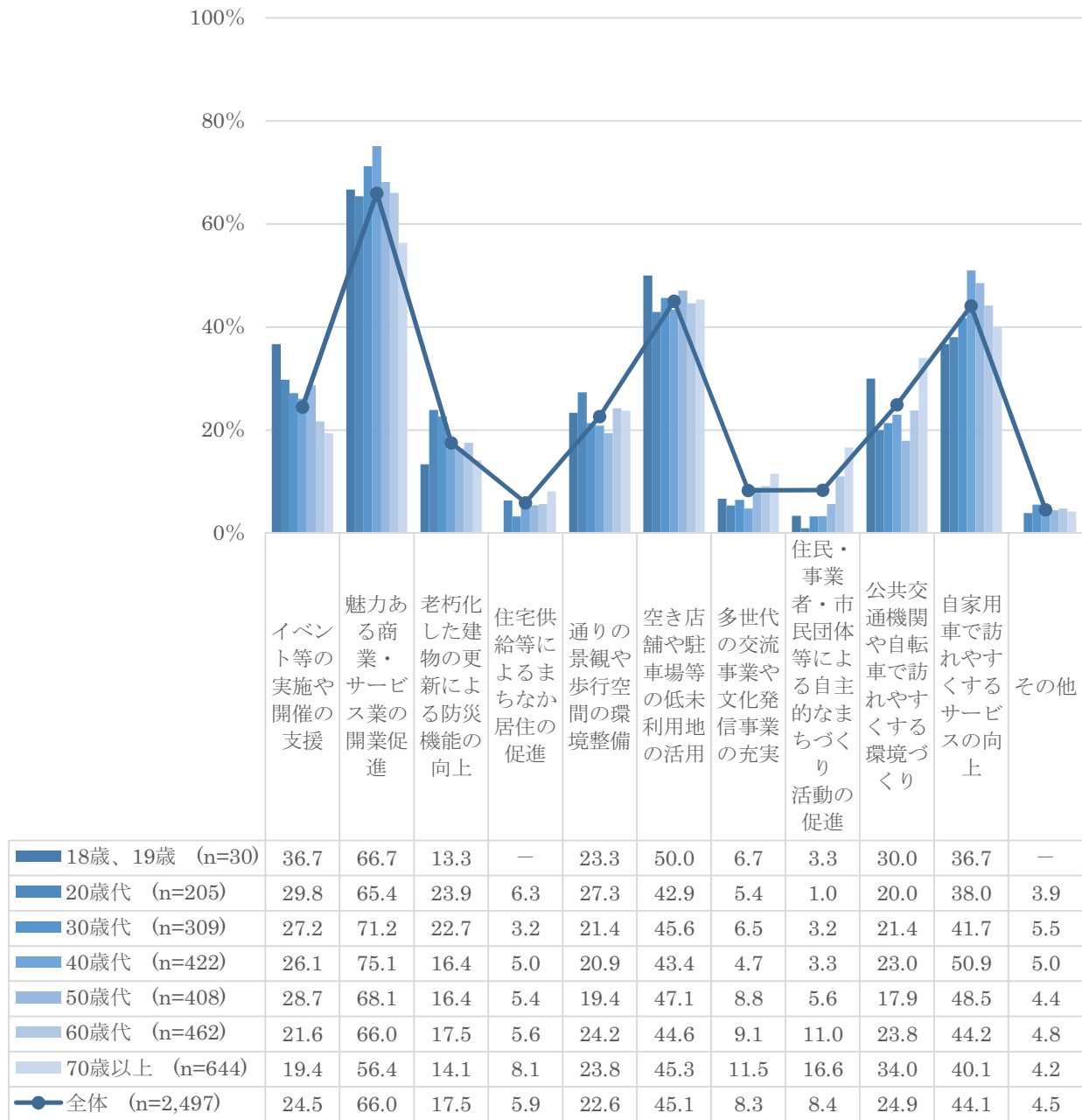
【全体的傾向】

「魅力ある商業・サービス業の開業促進」と回答した人の割合が66%で最も高く、次いで「空き店舗や駐車場等の低未利用地の活用」(約45%)、「自家用車で訪れやすくするサービスの向上」(約44%)と続いています。

【年代別にみた特性】

すべての年代で、「魅力ある商業・サービス業の開業促進」と回答した人の割合が最も高く、60歳代以下は6割を超えています。

また、18歳、19歳と70歳以上は、「公共交通機関や自転車で訪れやすくするサービスの向上」と回答した人の割合が約49%~51%と他の年代と比べて高くなっています。



(3) 市民ニーズの分析

中心市街地へ訪問する目的の第一に「公共交通機関の乗り換え」、次いで「買い物」、「飲食・喫茶」が挙げられており、商業・サービス業へのニーズの高さや交通の結節点としての豊橋駅の利便性の高さが認識できます。

中心市街地で充実して欲しいことや活性化するために重要な取組においては、「飲食店」、「スーパーや市場」、「魅力ある商業・サービス業の開業促進」との回答が多く、商業・サービス業の活性化を推進していくことが中心市街地に求められています。

また、自家用車、公共交通機関、自転車等、多様な交通手段により訪れやすくする取組や空き店舗や駐車場等の低未利用地の活用も求められています。

